

学生と創る幸齢社会 ～繋がりを作るコミュニティカフェ～ Making connection from community cafe

鈴木未来¹⁾

指導教員：服部南見²⁾

1) 創価大学 看護学部 看護学科

2) 創価大学 学士課程教育機構 講師

キーワード：コミュニティ, 高齢者, 孤独, 学生

1. はじめに

私は学生と高齢者に焦点を当てた八王子市運営のコミュニティカフェについて提案する。八王子市の基本理念である「人とひと、人と自然が響き合い、みんなで幸せを紡ぐまち八王子」から、人とひとの繋がりを結ぶことを目的とする¹⁾。日本では高齢者の割合が依然として増加している。日本の総人口は減少している一方、65歳以上の高齢者人口は、3640万人と過去最多である。更に、2065年には高齢化率は38%台になると推計されている²⁾。日本において高齢者は当たり前前の存在となる。この現状を踏まえて日本では、希望に応じて地方やまちなかに移り住み、様々な世代と交流しながら、就労や生涯学習、社会活動への参加等を通じて健康でアクティブな生活のまちづくりを進めている³⁾。今回の論文では、世界保健機関の定義から65歳以上の人を高齢者と定義する⁴⁾。

2. 現状分析

現状分析として、一人暮らしの高齢者による孤独の現状と八王子市の高齢者の現状、八王子市の学生の現状という三点について述べる。まず、一人暮らしの高齢者による孤独の現状である。一人暮らしをおこなう高齢者の人口は大きく増加している。65歳以上の人口に占める一人暮らしの割合は1980年の男性が4.3%(約19万人)、女性が11.2%(約69万人)だったのに対し、35年後の2015年には男性13.3%(約

192万人)、女性21.1%(約400万人)と激増している⁵⁾。高齢者の一人暮らしという状況下になると、退職して外に出る目的が失われてしまうことや体力の低下から家に引きこもり、人との関係を作れず孤独になるリスクが増加する。更に孤独による認知症の進行や孤独死が起こる⁶⁾。次に、八王子市の高齢者の現状だ。八王子市の高齢者は令和元年で全体の26.8%(約15万人)である。また2019年時点で14,313人以上の高齢者が一人暮らしをしており、その数は年々増加している⁷⁾。このことから、八王子市内でも、孤独を抱える高齢者の増加は問題である。最後に学生の現状についてである。八王子市は13大学を有する日本でも有数の学園都市である。近年ボランティア活動に積極的に取り組んでいきたいと答えた大学生は61.8%にのぼる。更にやってみよう活動として「まちづくりのための活動」という割合が最も多くなっている⁸⁾。つまり、大学生のボランティアやまちづくりといった活動に対する行動は積極的である。

3. 課題

上記を踏まえて、高齢者の孤独感や地域社会との交流の機会喪失という問題に対する解決のための取り組みが必要である。更に、日本でも有数の学園都市である八王子の学生が多い、という利点を生かしながら、学生のボランティアに積極的に活動していきたいという気持ちを促進できる活動が必要である。

4. 提案

(1) コミュニティカフェの概要

そこで私は「交流」の促進、学生の積極的参加を目的とした、新たなコミュニティカフェの設立を提案する。朝 7:30～20:00 の時間帯で、週に 2～4 回開設する。本市が主催となって、学生に向けてInstagramや広報誌などを利用したコミュニティカフェの宣伝、更に高齢者に向けた図書館やフードコートにおける宣伝、大学や老人ホーム、ひとや物とコミュニティカフェをつなぐ役割を果たす。ここでは、誰もが気軽に参加でき、安全・安心空間であると感じられるような古民家カフェを定義する。コミュニティカフェには、自習室のような一人で作業できるスペースと話をしながら食事を楽しめるスペースを設ける。また高齢者が参加しやすいように、スロープの設置や広い入口などバリアフリーに配慮し、食品は八王子市で作られたものを利用し、地産地消の促進を行う。更に最大の目的として、学生の参加を促す行動を行う。例えば様々な大学とコラボを行い、高齢者と学生を対象としたゼミ講演や学生の発表の場、看護・医学部による健康講座、文学部による文学について語り合う文学会、教育学部が主催する模擬授業、など対話会や学部やゼミの特性を生かした企画を運営、機会を提供し、開催する。また、ボランティアによる運営なども取り入れ、学生の力を積極的に取り入れ、学生の参加を促す。このコミュニティカフェには目的が二つある。一つ目は、高齢者の交流の機会を作ることができるということである。交流促進のために「交流機会の設定」をしてほしいと述べる高齢者は 25.9%いる⁹⁾。更に高齢者は同年代、または10代～30歳代との交流を望んでいる¹⁰⁾。コミュニティカフェを設立することで同年代、更にボランティアや大学生として参加する学生との交流を促進できる。二つ目は、大学生のボランティア活動への積極的参加を促進するためである。学生はボランティア活動に求める支援として、「参加しやすい活動プログラムの提供」や「活動に関する情報開示」、「集まれる場所や活動のための資材等の提供」が求めている⁸⁾。また、様々な大学とコラボ企画としてイベントや学生による発表、ゼミ講演、学部の企画、機会の提供

を行うことで学生のスキルの成長やコミュニケーションスキルの向上を目的とする。

(2) 高齢者サロンとの区別と共同

更にコミュニティカフェの存在意義として、高齢者サロンとの区別と共同を提案する。高齢者サロンで同年代交流が促進されている現状を、コミュニティカフェという新たな環境で同年代交流、更に世代間交流を後押しすることができる。また、高齢者と学生がつながる場、学生の積極的参加といった点が高齢者サロンと区別できる点である。高齢者サロンという既存の同年代交流の場を残しながら、同年代交流・世代間交流を行える場所としてコミュニティカフェを設立することは高齢者、学生の新たな挑戦空間、そして安心空間を作り出すために重要であるといえる。

5. 結論

本提案から、高齢者はコミュニティカフェで幅広い年代の人との会話で生きがいや地域貢献という活力を、学生は高齢者や幅広い人との会話やボランティア活動、大学としての活動の中での学びや成長を得ることができる。本市の目指すべき像への第一歩として活気と魅力あふれる街、八王子を目指す。

6. 参考文献

- ¹⁾ 八王子市「八王子未来デザイン 2040」(2022.9.9) <https://bit.ly/3ESoAOf>
- ²⁾ 総務省統計局(2021)<https://bit.ly/3eF1bVY>
- ³⁾ 厚生労働省 <https://bit.ly/3yQiTg2>
- ⁴⁾ 厚生労働省 e-ヘルスネット <https://bit.ly/3ScbI8T>
- ⁵⁾ 内閣府(第3章 平成30年度 高齢社会対策) <https://bit.ly/3CK5uHx>
- ⁶⁾ 社会福祉法人済生会 <https://bit.ly/3yRJppz>
- ⁷⁾ Knowledge Station (2022.10.19) <https://bit.ly/3yQBJUy>
- ⁸⁾ 国立青少年教育振興機構青少年教育研究センター(2020) <https://bit.ly/3DafVp6>
- ⁹⁾ 内閣府(1997)<https://bit.ly/3VDNbfH>
- ¹⁰⁾ ハイネスコーポレーション株式会社(2020) <https://bit.ly/3ScIFSC>